

## ■ 基盤教育科目

### 初期導入科目

#### ◎「新入生セミナー」

##### 概要

大学生活を送るうえで必要とされる、自主的かつ自律的な態度および学修の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。

##### 達成目標

高校とは、様々な点で異なる大学において有意義な学生生活を送ることができるよう、次に掲げる全学部共通の目標とともに、専門分野に関する基礎的な理解など学部・学科等ごとに定める必要な事項を修得する。

- ・日々の生活や学修における自己管理、時間管理ができるようになる。
- ・大学という場を理解するとともに、学修を進めるうえで必要な知識、技能を身につける。
- ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し、それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで、今後4年間の過ごし方について考え始める。

##### カリキュラムの方針

新入生を大学における学修全体へと導く役割を担う必修科目である。以下の構成をガイドラインとしながらも、その具体的な内容については専攻する学問領域の性質を考慮した学部・学科等ごとに相応しい事柄を、各教員の大学観・学問観を反映させながら教授する。

- ・「知ること」  
大学という場および自らが属する学問領域の広がりを知るとともに、生活態度や文献の探し方などについて学ぶ。
- ・「書くこと」  
日本語の表現に敏感になること、ノートの取り方、レポートのまとめ方などを修得する。
- ・「話すこと」  
プレゼンテーション（他者に対して分かりやすく発表すること）のやり方、ディスカッション（集団での討論）の進め方などを学び、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・「考えること」  
科学的・論理的な思考法などを身に付ける。
- ・「キャリアデザイン」  
専門分野にかかわる職業・働き方や自己についての理解を深めるとともに、自らのキャリアプランを意識しながら綿密な履修計画を立てる契機とする。

## ◎「スポーツと健康」

### 概要

在学中および卒業後の豊かなライフスタイルを形成できる心身の基盤を養う。

### 達成目標

人間力の育成として、身体・体力面（自己コントロール、適応力、耐性、自律性、達成感など）とともに社会・対人関係面（共感力、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど）における能力の向上を図る。

### カリキュラムの方針

1年次対象科目として、複数教員が6運動種目（ソフトボール、バレーボール、テニス、サッカー、卓球、フライングディスク）を担当する。一般的に普及している集団的スポーツと個人的スポーツで構成し、その中に軽スポーツ的な内容（卓球およびフライングディスク）を配して学生のニーズに応えられるようにしている。学生は、希望によって分けられたグループ（種目）ごとに受講する。週1回の授業の中で、自己の体力および心身の健康への認識を深め、それぞれの運動種目の基礎技能並びに基本的知識（戦術、ルール、マナー、審判など）を修得するなど個人的な能力の開発をめざす。また、ゲームを多く体験することで、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上をねらうとともにチームワークを高め、試合運営について熟知できるようにする。一方、グループを定期的に変えることで、様々な人達と接する機会を増やししながら、グループ間での学び合い、経験者による初心者指導、器具・用具の準備・片付け等における協働作業など、社会・対人関係力の形成に努める。また、それぞれの学生のレベルに応じたプログラムを同時に実施することで、運動する楽しさや意欲的な学修への動機づけを行う。

以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。

## ◎「情報処理基礎」

### 概要

すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。具体的には、オフィス系ソフトウェア、ウェブ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報倫理、総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、講義と実習を併用した形式で学修する。

### 達成目標

情報化社会を賢明に生きるとともに、専門分野でリーダーシップを発揮するためには、情報の検索、交換、表現や分析等の利用技術に通じること、とりわけインターネットなどの高度情報ネットワークを効果的に活用する能力が必要になる。また、情報犯罪から身を守るため、そして知らずして社会に迷惑を与えてしまうことが起きないよう情報化社会の光と陰の両面を理解し、基本的な情報倫理や情報セキュリティに関する知識を身につける必要がある。

本授業では、情報化社会で必要不可欠とされる情報リテラシー（情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力）を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深め、情報社会に創造的に参画する素養を修得することを目指す。

## カリキュラムの方針

すべての学生が共通的に修得すべき内容を中心に、学問領域の性質を考慮し、学部・学科等ごとに相応しい事項を反映させた編成とする。

### ◎基盤教育英語科目 (EPUU)

#### 概要

基盤教育の一環として、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養い、地球的な視野を持った 21 世紀型市民の育成を目指す。

#### 達成目標

「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の 4 技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、文化的背景に関する知識をも身につけさせることにより、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力を養成する。

#### カリキュラムの方針

1 年次対象科目として、日本人教員による「Integrated English IA」(前期週 2 回)、「Integrated English IIA」(後期週 2 回)、外国人教員による「Integrated English IB」(前期週 1 回)、「Integrated English IIB」(後期週 1 回)を開設している。2 年次対象科目としては、前・後期それぞれ、skills 別に 14 種類の「Advanced English I」を開設しており、その中から前期 1 科目 (週 1 回)、後期 1 科目 (週 1 回)を、選択必修として履修させる。更に 3、4 年次対象の選択科目として、「Advanced English II」、「Advanced English III」を開設している。

「Integrated English A」においては、Study Skills の養成後、Oral Communication と Reading を主とした 4 skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を図る。「Integrated English B」においては、Oral Communication と Writing を主とした 4 skills の育成を図る。「Advanced English I」、「Advanced English II」、「Advanced English III」の各クラスにおいては、1 年次で修得した基本的な英語運用能力を基に、特定の skill に焦点をあてた英語力の育成を図る。個々の学生が自己の興味や必要に応じて、学修対象 skill を選択する。

習熟度に対応した英語力養成を徹底し、そのために、入学時、1 年終了時、2 年終了時の計 3 回、全員に TOEIC を受験させる。1 年次生を 4 ないし 5 レベルの、2 年次生を 2 レベルの習熟度別クラスに分ける。ことに、習熟度の高い学生の英語力育成には力を入れており、入学時 TOEIC 650 点以上を取得した学生 Honors Student は、通常学生と異なる Honors Program 即ち「英語優等生プログラム」を、4 年間にわたり履修可能である。

以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の 50% 以上になることを目指す。



## 教養科目

---

### 概要

幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

### ◎人文科学系科目

#### 達成目標

自然を対象にした研究領域である自然科学に対して、人間の本性や行動、文化や芸術的側面に関する研究分野が人文科学である。人文科学系科目では、教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける。

#### カリキュラムの方針

人文科学系の科目は哲学、心理学、文学、芸術の領域からなり、教養教育の基礎となる学問領域である。さらに、人文総合領域という区分を設けることで、これらの個別の領域にとどまらないテーマで人文科学的な知識や考え方を身につける授業を用意している。

開設する科目は、哲学領域では、哲学と思想関係の科目、心理学領域では行動、認知、人間関係など心理学の下位分野を踏まえた科目、文学領域では、日本をはじめアジア各国、欧米各国の文学に関する科目、芸術領域では、文化論と美学、芸術学等の科目である。さらに、人文総合領域では、学修・教育やコミュニケーションなどに関する複数の領域にわたる科目を開設する。

これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得することができる。

### ◎社会科学系科目

#### 達成目標

社会科学系科目は、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養うことを目的とする。また、日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の特殊性への理解を深める。この過程を通じて、政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力を養成する。

#### カリキュラムの方針

多様な現実社会の理解を可能にするため、社会科学系は多方面の科目から成立している。それらは「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域に分類される。

履修者は自身の必要に応じて履修すべき領域を決定し、それぞれの領域から科目を選択することで、各自の学修計画に応じた履修が可能となる。この領域分類を参照することで、各領域から過不足なく履修し、バランスよく知識を修得し、様々な問題に対応するための基礎力を修得することが可能となる。

### ◎自然科学系科目

#### 達成目標

自然科学に関する基本的な知識や技能を修得し、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識に触れ方法論を学ぶことによって、持続可能な社会の形成を担う先進性と獨創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養を身につけることを達成目標とする。

## カリキュラムの方針

自然科学系科目の達成目標に到達させるために、次のように授業科目が編成されている。大学での学修の基盤を育成するため、本科目は1～2年次を中心に履修する。

開設する科目は学生の要望に応えられるように、数学、物理、化学、生物、情報、地学、健康の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目を開設している。これらの科目の中から自分に必要と思う科目を選択し履修することで自然科学に関する幅広い基礎知識を身につける。

### ◎初習外国語系科目

#### 達成目標

大学に入学する以前、学んだ経験のない外国語（初習外国語）の学修を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、英語学修のみでは気付きにくい、諸外国や異文化の多様性への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成する。また、語学学修を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせる。

なお、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、タイ語が設定されている。

## カリキュラムの方針

1年次対象科目として、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」を開設している。これらは、いずれも大学入学前に、それぞれの言語を学修したことのない初習者を対象に「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」といった力を養うものである。

また、上記科目を修得後、2年次以降を対象とした科目として、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」が開設されている。当該科目では、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る。

一つの言語で、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」の6科目を学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能となる。また、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学修スキルを修得することも可能となる。

なお、国際学部の学生は、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」を、専門導入科目として履修する。

### ◎総合系科目

#### 達成目標

社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成を目標とする。

## カリキュラムの方針

教室外活動の実施、大学内外のさまざまな組織からの講師の積極的登用、授業の一部を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学修を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。

## 基盤キャリア教育科目

### 概要

基盤キャリア教育科目は、学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成するための科目である。個人と社会とのかかわりや、働くことの意味を自ら考え、キャリアデザインを描くことができるように、外部講師のレクチャーやインタビューなど多様な体験を通じて、社会との接点を持ちながら学べる科目構成となっている。

### 達成目標

変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指して、そのために必要な基盤となる姿勢と能力を身につける。職業や働き方への理解、自己理解を深めるため、必要な知識、技能の修得を始め様々な能力や態度を身につけ、自らのキャリアデザインを行うことができるようになる。

### カリキュラムの方針

上記の目標達成のため、多様な科目が用意されている。各科目は、職業や働き方への理解や自己理解を深めていくため、大学の専任教員による座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことが重視されており、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成が図られる。

以上のカリキュラムによって、「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、今後の学生生活を実り多きものとする学生を育成することを目指す。



＜「人間と社会」講義



「キャリアデザイン」グループワーク＞

## 概要

学部留学生と交換留学生を対象にした日本語および日本事情の科目である。

## 達成目標

大学での勉学・研究に必要となる学術的な日本語に関する運用能力の向上を目指すとともに、現代社会における様々なコミュニケーションの場に通用する高度な日本語を身につける。また、日本社会・日本文化に関する理解と教養を深める。

## カリキュラムの方針

留学生日本語科目は、必修科目3科目と選択科目6科目から構成される。

必修科目「アカデミック・ジャパニーズ」、「日本語アカデミック・リーディングⅠ」、「日本語アカデミック・ライティング」は学部1年次対象科目である。「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能の強化とともに、主に講義の理解や専門書の講読、レポート作成に必要となる日本語の修得を目指す。

選択科目「日本語アカデミック・リーディングⅡ」、「日本語アカデミック・プレゼンテーション」、「科学技術のための専門日本語」、「人文社会系のための専門日本語」、「日本事情」は、主に学部留学生と交換留学生を対象にした科目である。「日本語アカデミック・リーディングⅡ」、「日本語アカデミック・プレゼンテーション」、「科学技術のための専門日本語」、「人文社会系のための専門日本語」では、学術的な言語運用場面を想定し、主に2年次以上での専門教育に要求される日本語の水準を目指す。「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能を複合的に結びつけた言語活動を取り上げ、総合的な日本語能力の育成を図る。選択科目「日本事情」では、日本の社会や文化、自然等を概観するとともに、日本人のコミュニケーションやものの考え方への理解を図る。



留学生の  
授業風景

## ◎国際学部

### 概要

国際学部の専門教育への導入として、「国際英語コミュニケーション」(2単位)、「初習外国語基礎Ⅲ・Ⅳ」(各1単位)、「初習外国語応用Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を必修科目とし、外国語によるコミュニケーションの基礎を修得するとともに、世界の多様な国や地域の社会・文化への関心を喚起し、学部専門教育科目の履修に向けた動機付けを図る。

なお、初習外国語としては、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・タイ語の6言語を設定し、そのいずれかを選択する。

### 達成目標

「国際英語コミュニケーション」は、国際語としての英語のあり方を多様な角度から見直し、理解を深めることを目標とする。

「初習外国語基礎Ⅲ・Ⅳ」では、各言語の「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養することを目標とする。

「初習外国語応用Ⅰ・Ⅱ」は各言語の基礎をふまえ、専門外国語科目の効果的な履修につながる理解と運用能力を身につけることを目標とする。

### カリキュラムの方針

「国際英語コミュニケーション」は、基盤教育の Integrated English Ⅰ をふまえ、その理解の深化と拡大を通じて、さらに上級の英語および関連諸科目へと進めるよう、1年次後期に履修する。

専門導入科目の初習外国語は、1年次に「基礎Ⅲ」(前期)と「基礎Ⅳ」(後期)、2年次に「応用Ⅰ」(前期)と「応用Ⅱ」(後期)を履修する。これらのうち、1年次の「基礎Ⅲ」・「基礎Ⅳ」は、それぞれ基盤教育の初習外国語系教養科目「初習外国語基礎Ⅰ」(前期)および「同・基礎Ⅱ」(後期)と並行して履修することにより、1年次で集中的に基礎を強化し、2年次の「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」、さらに専門外国語科目への移行を効果的に進めることができる。

## ◎教育学部

### 概要

教育に関わる原理および現代的な諸課題に関する基礎的な知見を獲得し、専門教育科目へと橋渡しをする。

### 達成目標

教育に関わる原理を学ぶと同時に、教育に関わる現代的な諸課題に関する基礎的な知識を修得することを通して、教育を原理的かつ多角的に探求していくための知的基盤を獲得することを目標とする。

### カリキュラムの方針

学校教育教員養成課程では、学生が教育を原理的に探求していくための知的基盤を確実に固められるように、「教育原論」、「教育心理学」、「教育課程及び方法・技術(情報機器及び教材の活用を含む。)」の3科目を必修科目とし、さらに、現在の教育における重要な諸課題に対応した教育のあり方を探求するための基礎となる、発達障害、生涯学習、福祉、環境問題、健康問題、情報化、小学校での外国語活動、グローバル化に関わる8科目(選択科目)を用意している。

総合人間形成課程では、人間形成の視点から、現代の教育における諸課題に対応するための教育のあり方について知的基盤を形成し、やがて学生自からが選択することになる専門領域(人間発達、言語文化、地域公共、環境創造、芸術文化、スポーツ健康)で自律的な学びが展開できるように、上記11科目の中から自由に4科目を選択できるよう配慮している。

## ◎工学部

### 概要

専門導入科目とは、専門教育へとつながる知識を身につけるための科目である。理工系の専門分野はほぼ例外なく数学的な手法に基礎を置いている。特に微積分学（解析学）は、その発見以来、変化する事象を記述する手法としてきわめて重要なものであり、大学のカリキュラムにおいても微分方程式や複素関数などのより進んだ科目の履修に欠かすことができない。ここでは、自然科学を記述する言語として微積分の基本的な知識と技能を修得することを目指す。

「応用化学基礎」（応用化学科のみ）は、応用化学科の専門教育につながる基礎科目である。

### 達成目標

「微積分学及演習Ⅰ,Ⅱ」においては、1変数関数の微積分、多変数関数の微積分、数列と級数に関する基本的な事項を深く理解すること、さらにそれらの応用に必要な計算技能を身につけることを目標とする。前者については、数列や級数の収束性についての定義や基本的事項の理解、1変数と多変数関数の微分係数・偏微分係数や積分の定義とその意味の理解が挙げられる。後者については、初等関数と呼ばれる一群の関数の微積分法の修得、テイラー展開や極値問題など、基本的事項の応用力の養成を目指している。

「応用化学基礎」（応用化学科のみ）においては、以下の3点としている。

- (1) 高校の化学を理解し、応用できる。
- (2) 原子や分子の成り立ちを理解し、説明できる。
- (3) 数値・単位の扱い方や化合物名など、化学で用いられる「言葉」を理解し、応用できる。

### カリキュラムの方針

専門導入科目のうち、「微積分学及演習Ⅰ,Ⅱ」は工学部全学生の必修科目で、3単位である。この科目は内容が広範にわたっているため、週に2コマ行い、それぞれ主として微分範囲の内容と積分範囲の内容をカバーしているが、完全には独立しているわけではなく、ある程度の関連はある。必要に応じて応用範囲の内容を身につけるために演習を行う。なお、学科指定のクラス分けを行っており、特に応用化学科と情報工学科のクラスについては、入学試験での出題科目や専門教育科目の特性を考慮して独自の内容となっているため、他の学科の学生はこれらのクラスを履修しても単位を修得することができない。

「応用化学基礎」（応用化学科のみ）は応用化学科の基盤的必修科目である。高校で学ぶ化学と大学で学ぶ化学との間には、本質的なギャップがある。そこで、専門教育科目を本格的に学び始める前にこのギャップについて学び、大学の化学をよりスムーズに理解できるように自主的に対策することがこの講義の目的である。この講義は、化学結合論、有機反応機構、無機・有機化合物の命名法、単位換算、有効数字、濃度計算の講義および演習から構成されている。大学で学ぶ自主性と基礎力を有するかどうかを評価する。

## ◎農学部

### 概要

農業、森林・林業・林産業、環境、生命科学をめぐる一般知識や考え方を幅広く学ぶとともに、農林業の現場を体験する。

### 達成目標

講義や農林業の現場でのフィールドワークを通じて、持続的・生物生産、環境の保全と修復、生命科学の発展と応用などの多角的な視野を培い、地域社会並びに国際社会に貢献することができる素養を身につけることに関連する。

### カリキュラムの方針

講義や農林業の現場でのフィールドワークを通じて、環境保全や持続的・生物生産に関する知識と理解を深めるために、1年次に「農業と環境の科学」、「生物資源の科学」、「農学部コア実習」を履修する。